

# 事例研究報告

## お菓子を介したコミュニケーション課題

# 児童・生徒の実態

- ・レット症候群。
- ・座位保持椅子で学習。
- ・両手を口に入れていることが多い。
- ・食事中は、両手が口から離れる。
- ・自分から何かに手を伸ばすことはほとんどない。
- ・眠ってしまうことが多く、覚醒時間が短い。
- ・背後から支え、歩行を促すと足が前方へ出る。
- ・膝立ちから転倒しそうになると前に手をつくことができる。
- ・触られて嫌な時、嫌な姿勢の時は激しく泣く時もある。

## 保護者の願い

- ・少しでも手が使えるようになる。
- ・好きな絵本や音楽が増える。
- ・興味のもてるものが増える。
- ・名前を呼ばれた時に、目を合わせられる。

## 教員の願い

- ・教員からの働きかけに気付き反応を示す。
- ・操作したことで音が出たり動いたりする変化に気付く。
- ・教具等を握るなど手を使う活動を増やす。
- ・提示された物や好きな物に、自分からすすんで手を伸ばす。

# アドバイザーからの助言の前に実践

## 学級での取り組み

- 給食時に手が口から離れてくることから、食べる場面で何かアプローチできないか？
  - お菓子を使って、コミュニケーションがとれないか？「ちょうだい」を伝えてほしい。
- このことからお菓子を使ったコミュニケーション課題を設定した。

### 【手続き】

- ①3秒以内に目が合ったらジュースを飲める・お菓子を食べられる。
- ②3秒経過後、教員が目を合わせに行く。  
目があったらジュースを飲める・お菓子を食べられる。
- ③お菓子やジュースを見たら、身体的ガイダンスでジュースを飲める・お菓子を食べられる。
- ④①～③後、教員が頭部を制止して、目を合わせてジュースを飲める・お菓子を食べられる。

## アドバイザーからの助言 1回目

### 【お菓子を介したコミュニケーション課題の時】

- 課題前に、立位姿勢等で覚醒を高めてから始める。
- 教員を見たら、即時に食べる。(口に入れる。)「見た→食べられる」をわかりやすく。  
多くを求めないこと。

### 【普段の生活場面】

- 手が口に入っている場合：肘をタッピングして外す。
- 座って、ロックキングをしはじめたら、自分の世界に入っていく傾向があるので、制止すること。

# 指導の手続き

助言前は座位で実施していたが、立位で実施することとする。

お菓子を提示

教員を見る  
食べる

「ちょうだい」  
の意思表示

飲み込む

咀嚼し、嚥下完了してから  
「ちょうだい」の目線を向ける  
までの時間を計測

計測

お菓子を提示

教員を見る  
食べる

「ちょうだい」  
の意思表示

飲み込む

計測

お菓子を提示

教員を見る  
食べる

「ちょうだい」  
の意思表示

# 記録方法と記録

①取り組みの様子を撮影

②学習グループの教員全員で①の映像を確認し、記録をとる。

\*普段の様子での記録もあわせてとる。

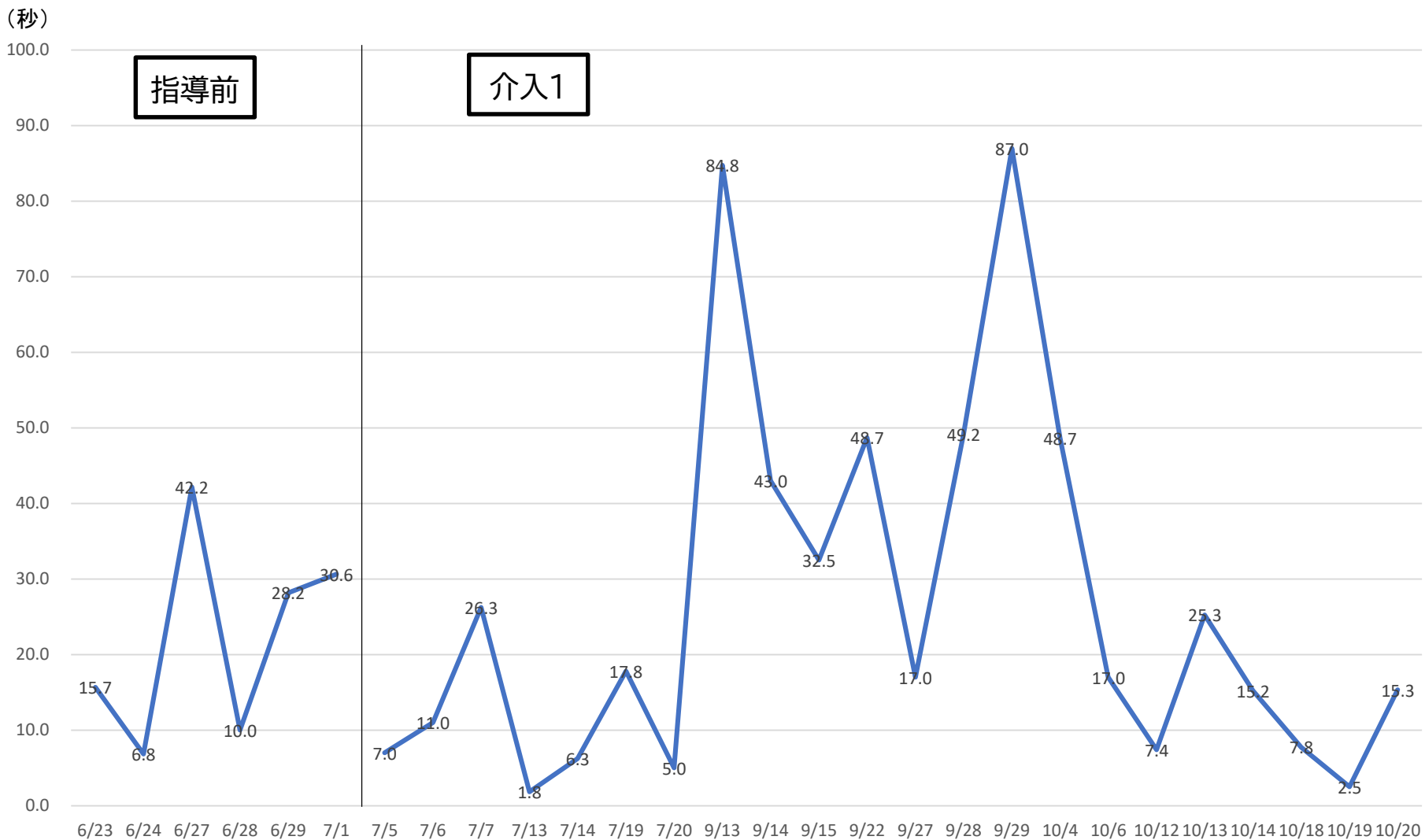
睡眠時間, 体調面等

\*試行回数はその日の体調等にに合わせて設定した。

	/	( )
メモ		
①	目が合ってから ごっくんまでの時間	秒
	ごっくんから 目があうまでの時間	秒
②	目が合ってから ごっくんまでの時間	秒
	ごっくんから 目があうまでの時間	秒
③	目が合ってから ごっくんまでの時間	秒
	ごっくんから 目があうまでの時間	秒
④	目が合ってから ごっくんまでの時間	秒
	ごっくんから 目があうまでの時間	秒
⑤	目が合ってから ごっくんまでの時間	秒
	ごっくんから 目があうまでの時間	秒
⑥	目が合ってから ごっくんまでの時間	秒
	ごっくんから 目があうまでの時間	秒
⑦	目が合ってから ごっくんまでの時間	秒
	ごっくんから 目があうまでの時間	秒
⑧	目が合ってから ごっくんまでの時間	秒
	ごっくんから 目があうまでの時間	秒
⑨	目が合ってから ごっくんまでの時間	秒
	ごっくんから 目があうまでの時間	秒
⑩	目が合ってから ごっくんまでの時間	秒
	ごっくんから 目があうまでの時間	秒

# 結果

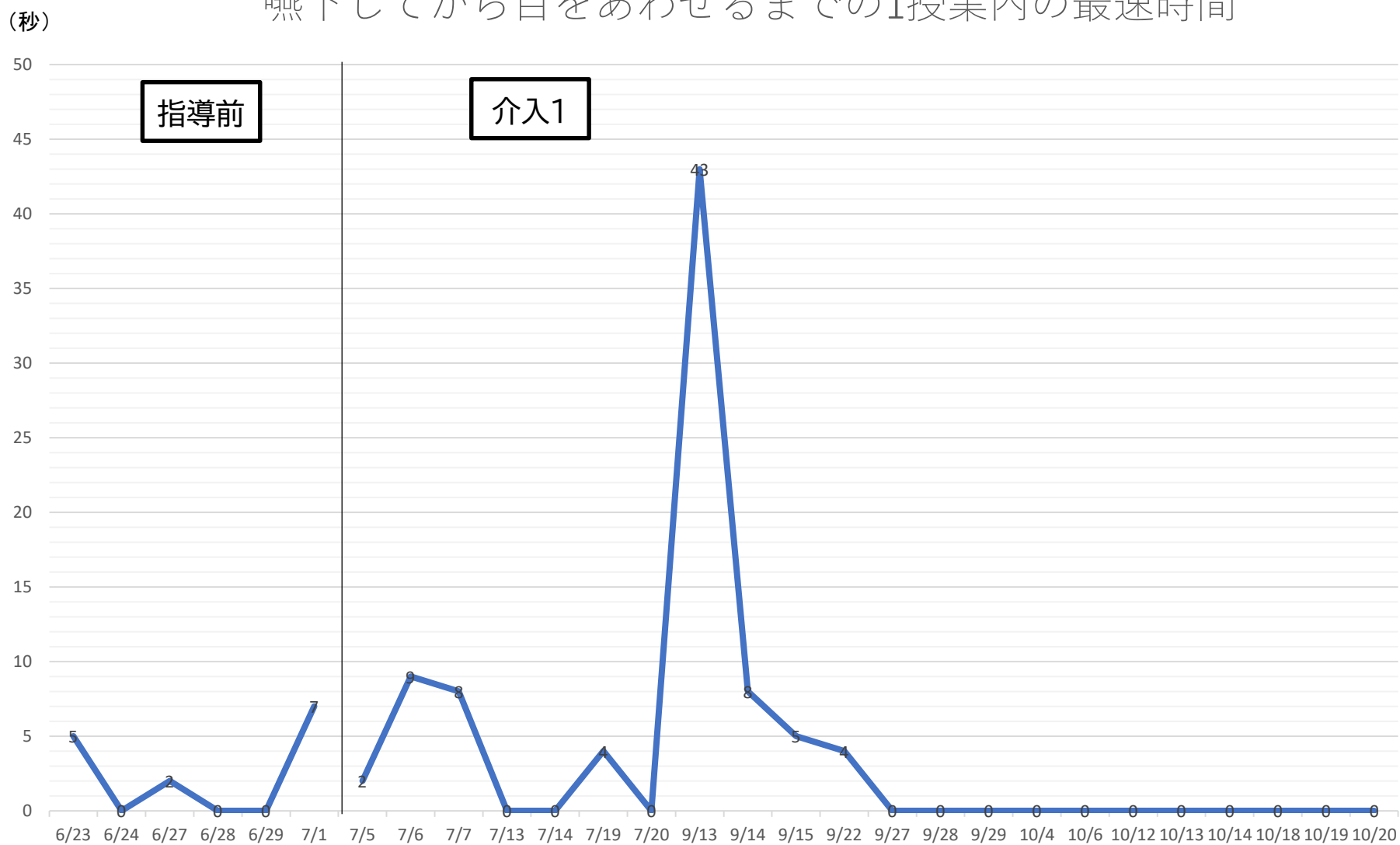
嚙下してから目をあわせるまでの1時間内の平均時間





# 結果

嚥下してから目をあわせるまでの1授業内の最速時間



# 2学期が始まって

- 長い夏休みを経て、2学期が始まると、覚醒と睡眠のバランスが崩れている。
- これまで学習したことを忘れてしまっている様子。
- 立ってられない。

座った状態で、再試行。

徐々に戻ってきた。

- 生活リズムが整った。
- 目が合ったら食べられること。
- 立っていられる時間が長くなった。

## アドバイザーからの助言 2回目

- 課題のstepを整理し直すこと
- 次のstepへ移行する基準を決めること
- もし、忘れていたようであれば、一番最初のstepに思い切って戻って再試行すること

## 2回目の助言を受けての見直し

【お菓子を介したコミュニケーション課題のステップの整理】

step1	お菓子を見る→口あける→即時口に入れる
step2	教員の目とお菓子を見る→口あける→即時口に入れる
step3	教員の目を見る→口あける→即時口に入れる
step4	教員が「はいどうぞ」の音声でお菓子を提示する →口あける→即時口に入れる
step5	「はいどうぞ」の音声→教員を見る→口あける→即時口に入 れる
step6	違うところで「はいどうぞ」→教員を見る→口あける →即時口に入れる

実施日：2校時（火～金）

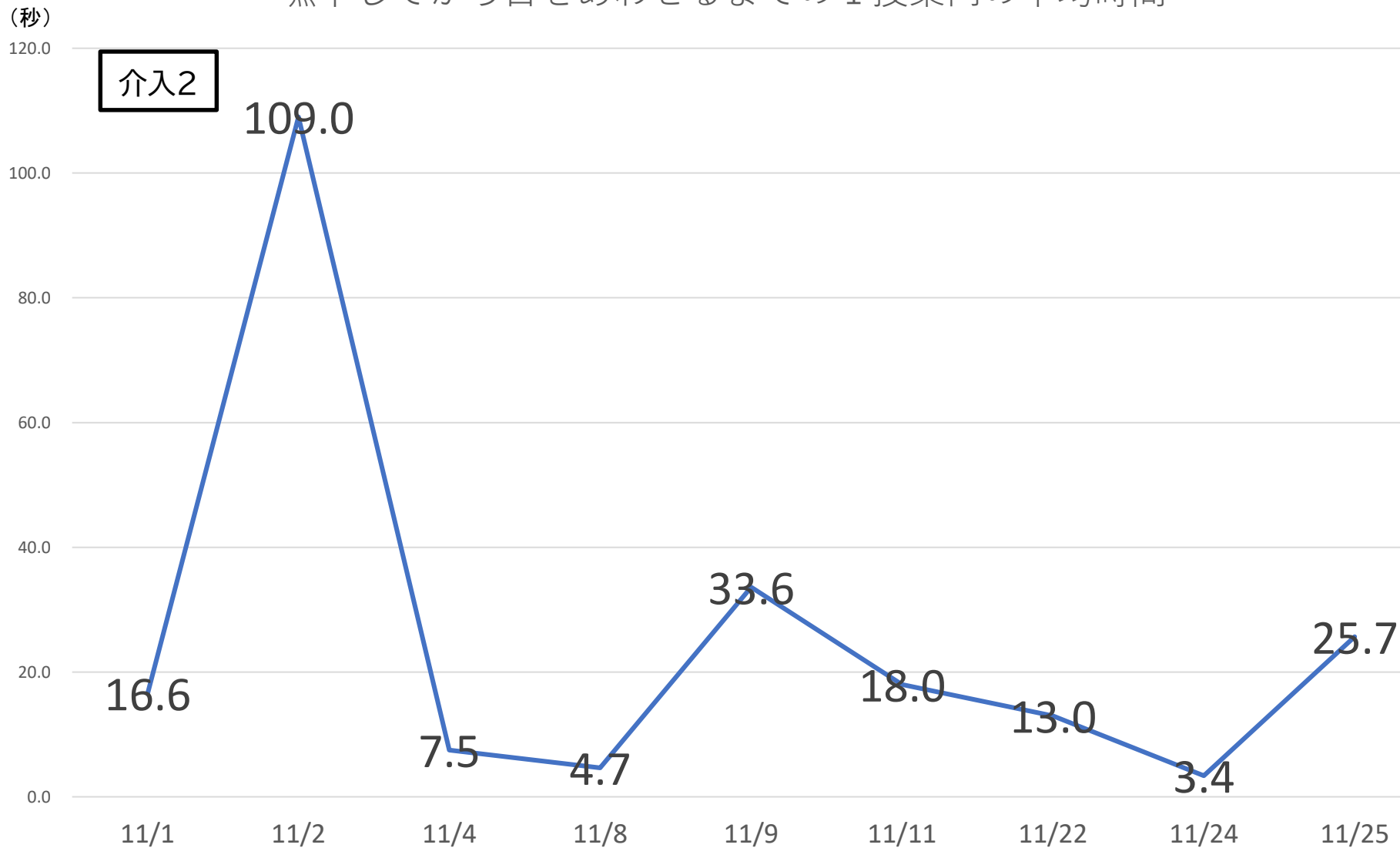
基準：1授業10試行とする。10試行全てできることが2週間続けば  
次のstepへ移る。

\*この時点でstep3の段階であったため、そのstepから開始。

\*もしも、忘れていたようであれば、step1に戻ってやりなおす。

# 結果

嚙下してから目をあわせるまでの1授業内の平均時間

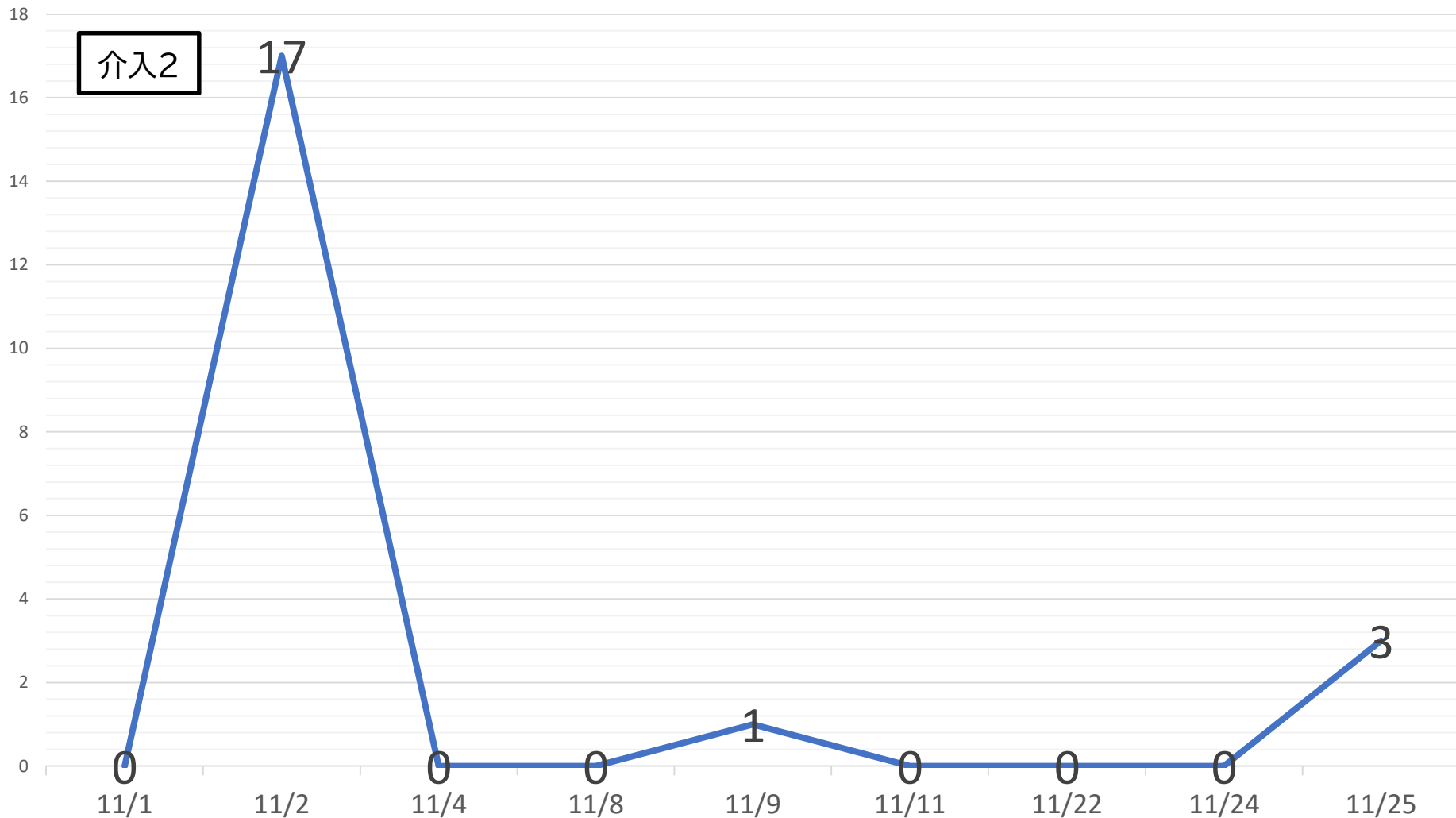


step3

# 結果

嚙下してから目をあわせるまでの1授業内の最速時間

(秒)



step3

# 現在は・・・

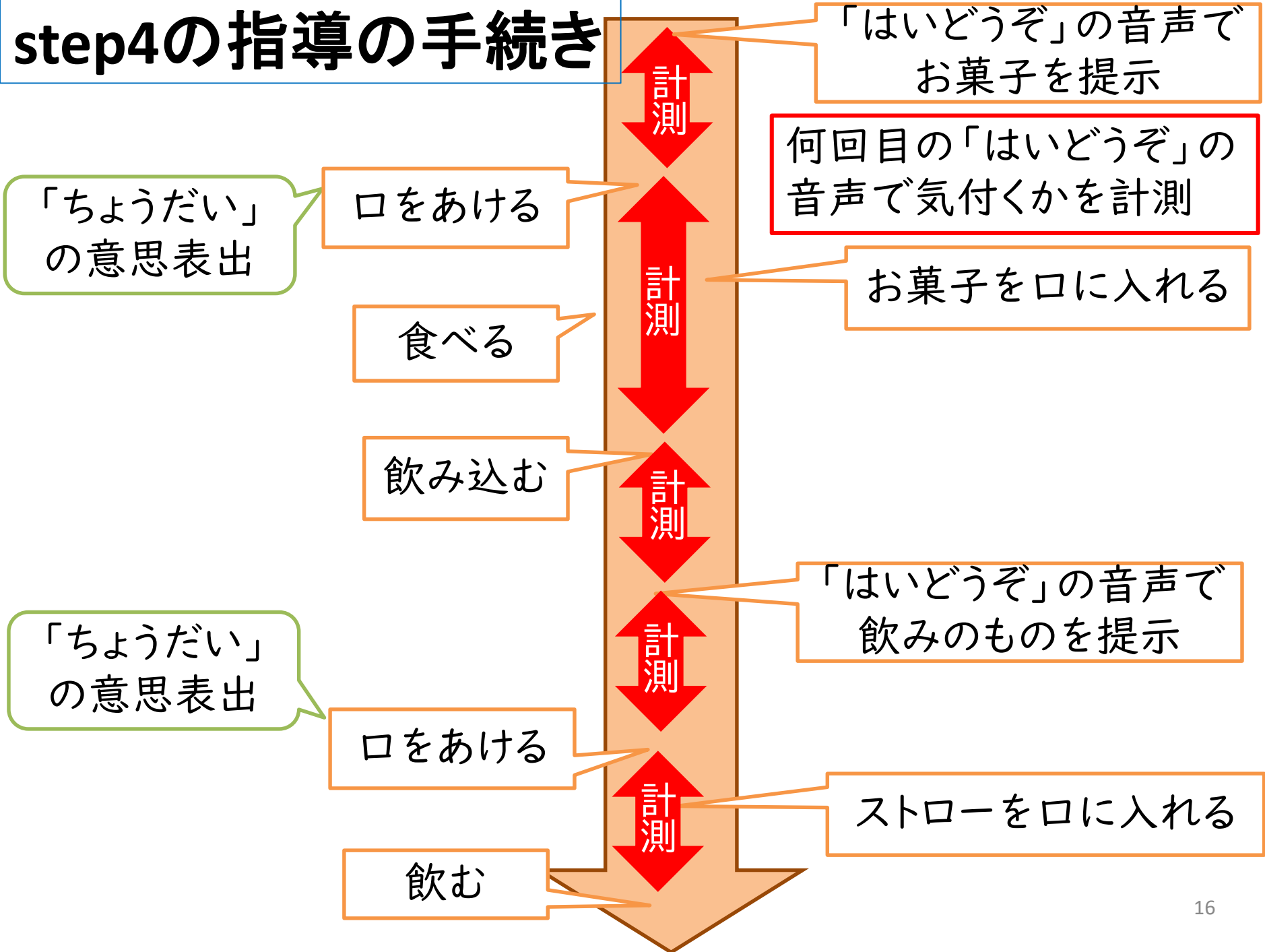
step1	お菓子を見る→口あける→即時口に入れる
step2	教員の目とお菓子を見る→口あける→即時口に入れる
step3	教員の目を見る→口あける→即時口に入れる
step4	教員が「はいどうぞ」の音声でお菓子を提示する →口あける→即時口に入れる
step5	「はいどうぞ」の音声→教員を見る→口あける→即時口に入れる
step6	違うところで「はいどうぞ」→教員を見る→口あける →即時口に入れる

現在は、step4を実践中である。

長期休業を挟むと、以前のように忘れていることが考えられる。

長期休業を挟むたびにstep1からやりなおしていく。

# step4の指導の手続き





# 記録方法と記録

①取り組みの様子を撮影

②学習グループ教員全員で

①の映像を確認し、

記録をとる。

\*普段の様子での記録もあわ

せてとる。

睡眠時間, 体調面等

①スタート	時間	アイドリング動作記録	ハイ
目あうまで			1
			2
			3
			4
			5
おかし	時間	おかし動作記録	
目あう	秒	<input type="radio"/> ごっくんしてすぐ要求(目みる) <input checked="" type="radio"/> ごっくんしながら見た(要求動作) <input type="checkbox"/> ごっくん後1.2.3ハイで気付く→口あけた <input checked="" type="checkbox"/> ごっくん後1.2.3ハイで気付かない * その他( )	
あーん			
バク			
もぐもぐ			
ごっくん			
アイドリング	時間	アイドリング動作記録	ハイ
ごっくん 目あうまで			1
			2
			3
4			
5			
お茶	時間	お茶動作記録	
目あう	秒	<input type="radio"/> ごっくんしてすぐ要求(目みる) 【いらない】 【エピソード】 <input checked="" type="radio"/> ごっくんしながら見た(要求動作) ☆ 目そらした <input type="checkbox"/> 1.2.3ハイで気付く→口あけた ★ 口あけない <input checked="" type="checkbox"/> 1.2.4ハイで気付かない △ 吸わない * その他( ) ▲ 吸ってもごっくんしない	
あーん			
バク			
ちゅー			
ごっくん			

# 指導の成果

- ・自分から目をあわせてくるようになった。
- ・口から手が離れている時間が増えた。
- ・覚醒時間が増えた。
- ・立っている時間が増えた。

視線のコミュニケーション  
「ちょうだい」を伝えられるようになってきた。

# ここが成功のポイント

## 【課題時】

- ・「見たら食べられる」と行動と結果の因果関係をシンプルにしたこと。
- ・即時強化をしたこと。
- ・指導の教員を1名に限定し、お菓子の提示手続き等を統一したこと。
- ・ステップの整理によって、次の目標が明確になったこと。

# ここが成功のポイント

## 【普段の学校生活】

- \*学習グループ教員全員で、以下の共通理解を徹底
- ①口に手が入りそうになると、気付いた教員が支援する（腕をポインティング）ようにしたこと、本人が気づいて口から手を離せることが増え、口に手が入る時間が減った。
- ②学校生活の中でも立位姿勢を取る時間をもつようにしたこと、覚醒時間が延びた。